

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 名張市立薦原小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒518-0606
三重県名張市薦生1595

E-mail : g01_e-komo@nabari-mie.ed.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 59 名 女子 58 名 合計 117 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

活動内容と児童の様子

ギフチョウの観察→調べ学習→発表（4～6月）

伊賀ふるさとギフチョウネットワークの皆さんの案内で、4年生は天然記念物のギフチョウを観察しに行く。当日は、天候に恵まれ、ギフチョウの発見に、感動と環境を守っていこうという気持ちが高まった。

ギフチョウについて、何を調べていきたいかテーマを出し、興味のある分野について、パソコン・本で調べた。その後、ギフチョウの餌であるカンアオイの観察をし、ギフチョウの卵を初めて発見した。実際に観察することで、子どもたちに感動をもらし、調べる意欲につながっていった。調べたことを、発表する際には、発表用の用紙に、発表内容の要点を書き、書画カメラを利用してみんなに伝えた。質問に対する受け答えを練習することで、わかりやすく伝えることができた。

薦原地域の自然観察→まとめ（6～7月）

自分たちの地域にどんな生き物が生息しているのか探検にいった。このときも、伊賀ふるさとギフチョウネットワークの皆さんに案内していただいた。継続学習をするためにチームの名前を考えたり、探検の旗、バッジをつくったりして観察に出かけた。一人ずつ虫とり網を持って、見つけた昆虫を捕まえ名前を聴いてメモをしていた。調査をした後は、捕まえた昆虫を逃がし、自然に返した。たくさんの、昆虫や植物に触れることで、自然の中に身を置き、自分たちの地域の豊かさを実感していた。さらに、学校の校庭に、絶滅危惧種の「ニッポンハナダカバチ」を発見し、大発見に胸を躍らせていた。

調べたことを、班で模造紙にまとめる作業をした。種類別にどんな生き物がいたのか、見やすくまとめることができた。その後、絶滅危惧種のニッポンハナダカバチの様子を観察した。穴を掘る様子、えさの種類など実際に見ることができた。興味を持った児童は、その後、自主的に巣の様を観察し、報告に来ることがあった。

薦原地域の自然観察→まとめ→地域への発信（9～11月）

ギフチョウネットワークの加納さん（他2名）を講師にお招きして、薦原地区の自然観察に出かけた。2回目ということもあり、子どもたちは、昆虫や植物の観察を意欲的に行っていた。春に調査した時と、昆虫や植物の種類が変わっており、季節の変化を感じることもできた。また、キャンプで行った曽爾高原で見たとんぼは、あきあかねだったのかなということもわかった。いろんな種類のちょうも生息していて、顕微鏡でちょうの眼を見せてもらい「めだまに毛が生えている。」と驚きの声が上がっていた。

今までの学習で調べたことをまとめ、全校のみんなや地域・保護者の方々に『コモコモふれあいまつり』のワークショップで発信することにした。当日はたくさんの方に参観をしていただいた。今までお世話になってきた、ギフチョウネットワークの北際さんから、この日をむかえるにあたり、ギフチョウの写真をいただき子どもたちは、ますますやる気が出ていた。他学年や保護者や地域の方々の前で緊張していたようだったが、堂々と発表することができた。今まで、総合的な学習の時間に学習してきたことをまとめ、みんなに伝えることができ、満足をしていた。参観者には子どもたちが作ったギフチョウの小冊子を渡し、一言感想も書いてもらった。

薦原地域の自然を守るためにできることを考える（1月）

1年間かけて学習してきた地域の自然についてのまとめの学習の授業を関係者に公開した。多くの参観者があり、子どもたちの周りをたくさんの方が取り囲んでの授業だったので、緊張気味の子どもたちだったが、今まで学習してきたことを基に、自分の考えをしっかりと発言することができていた。参観していただいた方からは、集中して授業にのぞむ子どもたちの姿や、自分の考えを、理由をつけて言う事ができる力が育っていることを褒めていただいた。授業者も、授業をしていて、今まで積み上げてきた学習の成果がしっかり出ていると感じることができた。1年間、ギフチョウを通して学習をしてきたことで、自分たちの地域に誇りを持ち、愛着を持つことができてきたのではないかと思った。今回の授業を通して、今まで気づけなかった自然と人間との共存について知り、地域の人たちが、私たちの地域を守ってくれたことに気づくことができたようだ。

この学習の背景にはゲストティーチャーとして関わってくださった伊賀ふるさとギフチョウネットワーク皆さんたちに、また、子どもたちを育ててくださっている地域の方々等たくさんの方にお世話になった。そのおかげでもあったと感じる。

平成 25 年度 稲作体験実践報告

薦原小学校 5 年

本校では毎年 5 年生が地域の田んぼをお借りして稲作体験学習を行っている。今年で 6 年目になる。さらに、本年度は J A 伊賀南部、J A 全農の協力を得て生き物調査を行った。

田植え (5 月) 地域の方に苗の植え方を教えていただき活動した。

児童の感想から

☆意外に苗を植えるのは難しいです。自分ではちゃんとどろに苗をつきさしているつもりなのに、なかなか苗がピンと立ってくれません。やっぱり一流の農家になるには、高度な技術が必要となってくるのだな。

田んぼの生き物調査 (6 月) 田植えをした田んぼで地域の方や J A 伊賀南部、J A 全農の協力を得て生き物調査を行った。

児童の感想から

☆田んぼの生き物がいるからこそ、私たちが食べているおいしいごはんがあると考えると、生き物に感謝したいです。生き物を大切に思える機会があってよかったです。

全校集会での発表 (6 月) 学んだことを劇やクイズにして全校集会で発信した。本校の全校集会では、発表後に各学年から感想を伝え合う時間を設けている。

全校に分かりやすく伝えるために劇にしたり、クイズにしたりして工夫できた。自分たちが一番伝えたいことは、劇中の人物に語らせたりみんなで訴えたりすることを話し合っ考えた。また、お互いに劇やクイズを見せ合い、発表を聴き合う中で練り合うことができた。

児童の感想から

☆(発表後の)感想で「生き物の住み家を守るためにもっとお米を食べようと思いました。」と言ってくれてとてもいい劇になったと思いました。

☆みんな劇を真剣に見てくれてうれしかったです。感想でも「いっぱいごはんを食べようと思いました。」と言いたいことが伝わってよかったです。

稲刈り体験 (11 月)

地域の方々に教えていただきながら鎌を使って一株ずつ刈り取り、束にして干しました。子どもたちは手作業を通して、稲刈りがかなり重労働であることや、安全に効率よく刈るためのコツがあることを学んでいった。また、地域の方の「稲の一本一本を大切に」「せっかくお米に生まれてきたのだから」という言葉からも米作りに対する思いを感じていた。天候が悪くなり、短時間ではありましたが、5月に植えた稲の生長を見届け、収穫出来た喜びが得られた。

児童の感想から

- ☆ 松並さんが教えてくれた稲を刈る時のコツは、株をふんで前に進むことです。そのコツがなかったら、全く刈り取れなかったと思います。
- ☆ 実際にやってみると、けっこう力を入れないと稲が刈れません。松並さんが「稲を全部拾ってや。」と言いました。稲に対して愛情があるなと思いました。
- ☆ 稲が田植えをしてからとても大きくなっていたのでびっくりしました。松並さんは「天日干しをするとお米がおいしくなる。」と言っていました。

コモコモふれあいまつりでの発表（11月）

1学期から学習してきた米作りや生き物調査の体験から、「どうすればみんなが米をたくさん食べるようになるか」を考え、お米キャンペーンとして、「米米ふれあい祭り」を行うことにした。みんなで考え投票して決めた米のゆるキャラや、米に関するクイズ、レシピ、替え歌を通して「たくさん米を食べてほしい」思いを伝えた。

児童の感想から

- ☆こめじいさんをこわがる1年生、こめじいさんにさわりたい6年生がとても喜んでくれたので「やったー、作ってよかった。」と思いました。
- ☆クイズを考えたとき高学年のクイズは調べたり解説を簡単にしたりするのに苦労しました。首飾りをみんながうれしそうに受け取ってくれました。
- ☆本番直前になるとちょっとだけ緊張しました。米じいさんの人気があって良かったです。

収穫祭 おにぎりづくり（11月）

公民館でおにぎり作りした。5月に田植え、9月に稲刈りをしたお米を使っての実習にみんなわくわくしていた。松並さん、民生委員さんや地域の方々にお手伝いいただき、9キロのお米を200個のおにぎりにした。つくったおにぎりは全校に届け、喜んでもらいまたうれしそうな子どもたちだった。

児童の感想から

- ☆ 「まず水を入れてほこりを取り、水を流しそのまま混ぜる。3回くりかえすとお米がきちんと洗えるよ。」と教えてもらいました。やってみると本当に洗えてきれいになってびっくりしました。
- ☆ 8回目に形は三角、にぎりやすいあつさ、塩の量すべてが絶妙なバランスでした。作ったしゅん間感動しました。
- ☆ おにぎりはすごくあつかくておいしかったです。1年生や2年生が「ありがとう。」と言ってくれて「作ってよかったな。」と思いました。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ ）